

助教・倉内 祐樹

大学院生命科学研究部 薬学系 薬物活性学

▶ 研究内容

【背景・目的】

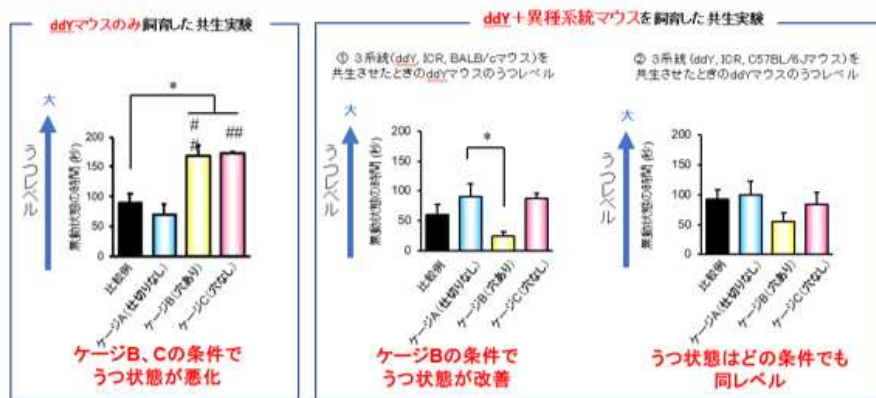
ヒト社会を模した多様な“接触(ふれあい)”が生じる再現性のある動物実験モデルが存在せず、妥当性の高い評価(アカデミア研究、創薬研究など)ができていない。本システムを用いることで、動物実験モデルの妥当性を向上させ、研究クオリティの向上に資する。また、ストレスのない動物飼育方法を提案できる。

【研究概要】

本研究では、社会接触に介入した全く新しい動物実験モデルならびに評価系を実現できる。具体的には、モチベーション、不安、うつなどを評価する試験ならびに創薬研究の最大の課題である「ヒトと動物のギャップ」を埋める研究を実施できる。これは、“精神症状を評価する適切な妥当性の高い動物実験モデルがない”という製薬業界が抱える問題を解決し、創薬開発の成功効率向上に貢献できる。



実験動物を飼育するためのヘキサゴン型飼育ケージ



共生環境によって、ddYマウスのうつ状態が異なる

▶ 提供できる技術

・共生状態のコントロールにより、実験動物のうつ状態の惹起ないしコントロールが可能となり、うつ病モデル動物の作製が可能となり、抗うつ薬の評価が可能になる。

▶ 特許

特願2020-188500

▶ キーワード

精神疾患 うつ ADHD モデル動物 サプリメント 食品 高架式十字迷路 行動薬理学的解析 mental disorder depression model animal supplement foodstuff Elevated cross lost Behavioral Pharmacological Analysis 医歯薬学領域 薬学 生物系薬学

---

《ご連絡先》 コーディネータ 日高 悠希 TEL 096-342-3246 FAX:096-342-3246 mail:y-hitaka@jimu.kumamoto-u.ac.jp